

メンタルヘルスーサルからのヒント

九州電力・統括産業医 藤代一也

(福岡産業保健総合支援センター 産業保健相談員)

類人猿では、脳の前頭葉の大きさと、形成する集団の大きさが比例しているのではないとも言われていて、進化過程で最も最初に分岐したテナガザルでは 15 匹、次のゴリラでは 34 匹、そしてヒトでは 148 匹（いや 148 人か）くらいが 1 匹が関係を維持できる最大の大きさとも言われている。

現代の人間は約 150 人よりもっと大きな集団を、例えば会社とかを形成しているが、顔と名前だけではなく一定の濃密さを維持できるのは 150 人前後という示唆なのかもしれない。実際、学校の 1 学年は 150 人前後がまとまりも良いらしいし、原始的部族の比較研究でも 50 人くらいの部族が 2～3 集まってお祭りをするようなことが良く見られていて、脳科学だけではなく色々な研究分野でも 150 人というのがキーワードになっているようだ。

一方、日本の弥生時代の遺跡の調査でも 150 人くらいで暮らしていたというのが多いようだが、それを超えるような大型の遺跡は古墳時代との境界線上で見られるようになり、その頃から人と人との大規模な争い、戦争というものの痕跡が見られるようになるというのは、現代社会の職場をマネジメントする際にも知っておいて損はないのかもしれない。